

独立行政法人  
宇宙航空研究開発機構(JAXA)の  
平成23年度 年度計画について

平成23年4月6日

宇宙航空研究開発機構  
経営企画部 稲場 典康

# 平成23年度年度計画の概要(1/6)

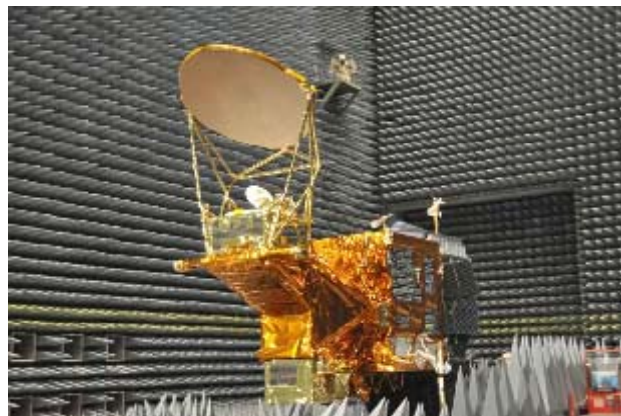
## 1. はじめに

中期目標、中期計画及び平成23年度当初予算に従い、平成23年度の年度計画を策定したので、その概要について報告する。

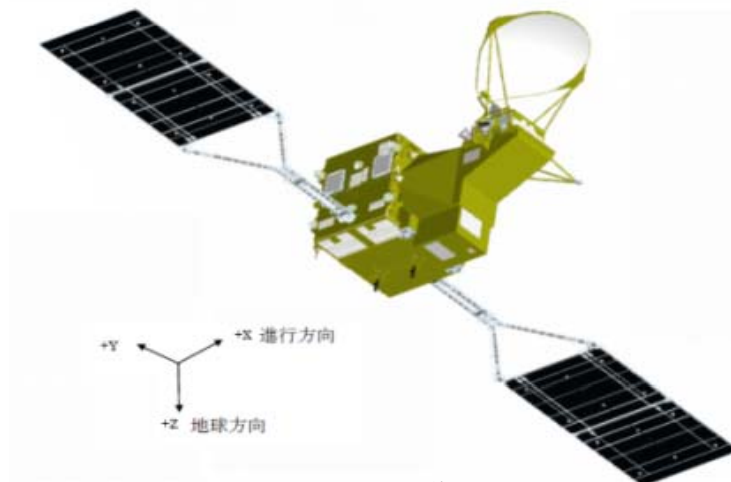
## 2. 事業の実施計画

### (1) H-IIAロケットにより、水循環変動観測衛星(GCOM-W1)を打ち上げる

- 海面水温、降水量、土壌水分、積雪量等の地球の水循環に関する物理量の計測により温暖化・気候変動の影響の把握に貢献
- 環境観測技術衛星(ADEOS-II)により得られたセンサ技術(高性能マイクロ波放射計:AMSR)の維持・向上を目指す



開発試験中のGCOM-W1



GCOM-W1の軌道上外観

# 平成23年度年度計画の概要(2/6)

## 2. 事業の実施計画(続き)

### (2) H-IIBロケット3号機により、宇宙ステーション補給機(「こうのとり」、HTV)3号機を打ち上げる

- ISS共通システム運用経費の我が国の分担責任に相応する物資及び「きぼう」運用・利用に必要な物資を輸送、補給
- 将来の軌道間輸送や有人システムに関する基盤技術の修得



筑波のHTV運用管制室



HTV(写真は2号機, NASA提供)



H-IIBロケット

# 平成23年度年度計画の概要(3/6)

## 2. 事業の実施計画(続き)

### (3) 古川宇宙飛行士のISS長期滞在

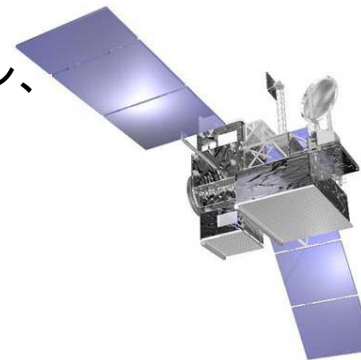
- 5月末頃にソユーズ宇宙船に搭乗、約6ヶ月の長期滞在を予定
- 医学の専門性を有するISSフライトエンジニアとして、宇宙医学の軌道上実験や、「きぼう」を含むISSの各施設の運用および科学実験、ISSロボットアーム操作を実施



古川 聡 宇宙飛行士  
(ISS第28/29次長期滞在)

### (4) 全球降水観測(GPM)衛星への二周波降水レーダ(DPR)の引き渡し

- 米国衛星GPMに搭載するDPRの製作試験を完了、米国NASAに引き渡す
- 米国でGPM衛星のインテグレーション、試験を実施した後、平成25年度にH-IIAロケットで打上げ予定



GPM衛星の外観



開発試験中のDPR

# 平成23年度年度計画の概要(4/6)

## 2. 事業の実施計画(続き)

### (5)その他

- ◆ 以下の事業について所定の計画に従い研究開発を進める。
  - 第1期気候変動観測衛星(GCOM-C1)
  - 陸域観測技術衛星2号(ALOS-2)
  - 雲エアロゾル放射ミッション／雲プロファイリングレーダ(EarthCARE/CPR)
  - 水星探査計画(Bepi Colombo)
  - X線天文衛星(ASTRO-H)
  - 小型科学衛星シリーズ
  - 固体ロケット(イプシロンロケット)
  - 小惑星探査機後継機(はやぶさ2)
  - 航空機及び航空エンジンの高度化
- ◆ 金星周回軌道投入に失敗した金星探査機(あかつき)については、原因調査と次の投入機会に向けた運用を行う。
- ◆ LNG推進系について、技術開発成果のとりまとめと今後の研究計画の策定を行う。
- ◆ はやぶさの帰還カプセルから回収した試料の分析について、国際公募を行う。
- ◆ 産業界・関係機関等との連携・協力、国際協力を一層推進する。
- ◆ 東日本大震災への対応については、影響が明確になった後、必要に応じ年度計画の見直しを行う。

# 平成23年度年度計画の概要(5/6)

## 3. 業務運営の効率化

### ◆ 業務の合理化・効率化

#### ● 経費の合理化・効率化

一般管理費の削減及びその他事業費を対平成19年度比で約4%削減  
(平成20年度から毎年度1%ずつ削減目標を拡大)

24年度末迄に東京事務所を移転することを前提に、調査検討を実施

#### ● 人件費の合理化・効率化

人件費削減の取組みを継続し、対平成17年度比で6%以上削減  
(平成18年度から毎年度1%ずつ削減目標を拡大)

### ◆ 情報技術の活用による業務の効率化、確実化

#### ● プロジェクト支援や業務運営支援のための情報化を推進

### ◆ 内部統制・ガバナンスの強化に引き続き取り組む

# 平成23年度年度計画の概要(6/6)

## 4. 主な数値目標

	<u>23年度目標</u>	(22年度目標)	(対応する中期計画)
◆ 人材交流	500人	(500人)	年500人
◆ 宇宙教育指導者 (ボランティア)育成	200名	(200名)	5年で計1000名
◆ コズミックカレッジ開催	80回	(80回)	年40回
◆ 共同研究	500件	(460件)	期末に年500件
◆ 技術移転(ライセンス契約)	50件	(50件)	期末に年50件
◆ 施設・設備の供用件数	50件	(50件)	年50件
◆ 査読付論文の発表	350件	(350件)	年350件
◆ ホームページ・アクセス数	月750万件	(月700万件)	期末に月800万件
◆ タウンミーティング	10回	(10回)	5年で計50回
◆ 講演会の実施	400回	(400回)	年400回

# (参考)衛星等打上げ計画

(平成23年度予算ベース)

	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
H-IIA	<p>▲ 金星探査機「あかつき」 ／小型ソーラー電力セイル 実証機(イカロス) 5月21日打上げ成功</p> <p>▲ 準天頂衛星初号機 「みちびき」 9月11日打上げ成功</p>	<p>▲ 第1期水循環 変動観測衛星 (GCOM-W1)</p>		<p>▲ 全球降水観測計画 ／二周波降水レーダ (GPM/DPR)</p> <p>▲ 陸域観測技術衛星2号 (ALOS-2)</p> <p>▲ X線天文衛星 (ASTRO-H)</p>
H-IIB	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 2号機 1月22日打上げ成功</p>	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 3号機</p>	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 4号機</p>	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 5号機</p>
その他				<p>▲ イプシロンロケット試験機 ／小型科学衛星1号機</p>

注) ▲は打上げ済み。

24年度以降の計画については、必要な予算措置が講じられるとともに開発が順調に進捗することを前提としており、今後の見直しによって変更がありうる。